

サンゴ礁生態系の状態と行動計画に関する意見交換会の概要

【日 時】 平成 24 年 11 月 23 日（金）18:30～20:30

【場 所】 東京大学 小柴ホール

【参加者】 検討委員：灘岡和夫・鹿熊信一郎・上村真仁・土屋誠・中野義勝・林原毅・
日高道雄・山野博哉

一般参加：サンゴ礁学会学会員 22 名

事務局：尼子直輝・中川春菜（環境省）

木村匡・鈴木久美子・加藤恵里（自然研）

【概 要】 日本サンゴ礁学会が開催する年次大会第 12 回大会の自由集会の時間を利用して、「サンゴ礁生態系保全行動計画」（以下「行動計画」という。）の点検状況を共有し、日本サンゴ礁学会としての役割や今後行動計画と連携すべき活動等について議論を行うため、意見交換会を開催した。

意見交換会には、環境省の尼子直輝及び中川春菜担当官、フォローアップ会議の委員ら（灘岡和夫・鹿熊信一郎・上村真仁・土屋誠・中野義勝・林原毅・日高道雄・山野博哉）とともに、22 名の一般参加があった。全体の進行は自然環境研究センターの木村、意見交換会の座長はフォローアップ会議の灘岡和夫委員長が務めた。

意見交換会では、まず環境省から行動計画の内容と点検の進捗について説明があり、続いて中野義勝保全委員会委員長が、日本サンゴ礁学会の作成した「サンゴ礁保全再生アクションプラン」（以下「アクションプラン」という。）について発表した。

その後の自由討論では、省庁間の連携の強化や関連する生態系を対象にした保全策の検討等の課題が指摘された。

学会の今後の具体的な活動としては、中野保全委員会委員長より、学会のアクションプランの見直しが提案された。

【フォローアップ会議への主なコメント】

- ◆ 行動計画における省庁間の連携の強化
- ◆ マングローブや藻場干潟などの関連する生態系を対象にした具体的な保全策の検討
- ◆ 行動計画を具体的に保全現場へフィードバックさせる仕組みの検討
- ◆ サンゴ移植情報の集約と共有化
- ◆ 保全に取り組む人材の育成